

釜無川上流の洞ヶ沢上部の植物観察会

平 林 陸 男

第138回例会は、平成2年9月8～9日に両日諏訪郡富士見町にある釜無川上流の洞ヶ沢上部（石灰岩がれ場）が目的地であり、約10kmの登山道周辺も併せて、植物観察会を行った。

参加者は、当日も含めて、大塚幸一、斉藤定美、中沢袈裟延、花里弘、池田登志男、小口好久、竜堅守、上兼力三、藤井紀行、上条重利、中村英夫、平林陸男の総勢13名であった。

8日は、民宿まほろばに泊まり、夕方宿舎付近や車に便乗して、途中の道路状況と自然散策を行う。民宿付近には、クサコアカソ、タチドコロ、エゴノキ、ウラゲエンコウカエデ、林道を6km行った白谷沢付近は崩落もなく、車の通過可能を確認した。近辺には、エビラフジ、フジウツギ、ミズナラ、サワシバなどがあり、夕刻も迫ったので直ちに帰った。

夕食は、シシの刺身、シシ鍋を口にしながら、釜無の自然や植物、各地の植生について話がはずんだ。

9日8時、2台の車に分乗して林道を走る。8時45分下車、標高1480m、荒れた登山道に入る。この辺は、40年生ほどの二次林で、カラマツやウラジロモミ、路傍にセキヤノアキチョウジ、タニタデ、ミヤマニガウリ、ミヤマイラクサ、カメバヒキオコシ（多）、ミズヒキ、オオガクビソウ、エビラフジ（多）、ノブキ、キバナノアキギリ、フタリシズカ、タマガワホトトギス、ヤブジラミ、オオバギボウシ、カワミドリ、ミツバフウロ、ミチシバ（多）、ウシタキソウ、イブキボウフウ、シオガマギク、ヒメウツギ、マルバサンキライ、メグスリノキ、イヌブナ、イケマ、イワボタンなどが見られた。

4kmほど登った所には、壊れかかった伐採小屋がある。道下は、雑木林で、上方は、胸高20cmほどのウラジロモミで、この辺はオトコエシ、ノガリヤス、オニルリソウ、ムカゴイラクサ、ヤブソテツ、ミヤマカタバミ、タツノヒゲ（多）、タチツボスミレ、トチバニンジン、イッポンワラビ、ミヤマタニソバ、スズダケ、オオバキハダ、チドリノキ、イヌザクラ、オニグルミなどが生えている。

更に横手に行くと、沢となって（1530m）石灰岩の岩壁に、アオチャセンシダ、ヒメイトラノオ、イワウサギシダ、シナノコザクラ、オオレンシダ、ツルデンダ、クモノスシダが見られ、その周辺には、クサボタン、ミヤコイラクサ、クサコアカソ、クガイソウ、ミズナ、エゾハタザオ、アマニウ、オオバコ、コバギボウシ、ヤブジラミ、ススキ、イタドリ、

ハナビガヤが見られ、ニワトコ、ノイバラ、ニシキウツギ、クロイチゴ、クマイチゴ、カツラ、エビガライチゴ、クサザクラなどが生えていた。

道は、等高線添いで、ノコンギク、ミヤマシケシダ、フタバアオイ、ミツバ、メタカラコウ、カンスゲ、イヌガンソク、シロヨメナ、ソバナ、マルバダケブキ、ウマノミツバ、ヤグルマソウ、クジャクシダ、オオバショウマ（多）、ハナイカリ、ナガバノコウヤボウキ、ウメガサソウ、トチノキ、エゾノコリンゴ、ヤマグワなどが生えていた。

道はだらだらと登って行く。1540m辺では、ハンゴンソウ、ナベナ、ユキザサ、ヤマハタザオ、ルイヨウボタン、ジャコウソウ、アカネ、ヤマブキショウマ、コウモリソウ、レイジンソウ、ハンショウズル、オクノカンスゲ、イヌトウバナ、ヤマホタルブクロ、ヒロハヘビノボラズ、ミヤマガマズミ、ミヤマクロモジ、モミジイチゴ、サワダツ、ハウチワカエデなどが見られた。

いよいよ、目的地の洞ヶ沢に入る。山肌は急で道に見られる岩石は、殆どが石灰岩で他の岩石は見られない。周辺は20～30cm以下の落葉樹で、ミズナラ、サワバシなどが多く生えている。標高1600m、谷間には水がなく、巨大な石灰岩が転がっている。この辺は、ヒトリシズカ、ヒカゲミツバ、ウスユキソウ、イワベンケイ、グンナイフウロ、トダイハハコ、ミヤマウズラ、シロバナヘビイチゴ、ホタルサイコ、カマナシハタザオ、イワデンダ、ハリギリ、グミ、ミヤマガマズミ、ハウチワカエデ、ブナ、ヒロハヘビノボラズ、ホソエカエデ、イワシモツケなどが見られる。

沢の谷間を川添いに登ると、水の流れに出合い1630m、ここで昼食をとる。付近には、スミレサイシン、トガクシデンダ、アオチャセンシダ、イワウサギシダ、イチョウシダ、ミヤマモジズリ、シュロソウ、アカイシコウゾリナが見られる。左山の斜面は広大な石灰岩のがら場で、上記の石灰岩特有のシダ類の他、ニョホウチドリ、ホテイアツモリ（希少）、ヒメカラマツ、ゴマナ、オオバギボウシなどが見られ、がら場の周辺には、クロカンパ、トウヒ、ハクサンシャクナゲ、コメツガ、クロベ、カラマツ、コマイワヤナギ、ケアオダモなどが見られ、13時同じ道を通って帰路につく。林道を通る折に車中で猿2匹を見るのも珍しかった。民宿に着き（15時45分）解散。池田登志男先生のご指導を仰いだ。